

深津 典子さん（出雲市出身）

寅年

出西窯 陶工

出雲市斐川町生まれ

高校卒業後、5年間OLとして勤務  
その後、出西窯で昭和60年8月から3年間の研修を積んだのち現在に至る。



高校卒業後、5年間会社の事務として働いていた深津さん  
深津さんのお父さんが出西窯の5人の創業者のひとりであり、小さい頃から焼き物を見ることは好きでしたとのこと  
また、何かをつくるという仕事に興味があり、偶然にも出西窯の女性補助員が退職され、この時に創業者の別の人から「長い目で見て女性も創作に携わってみてはどうか」との後押しがあったことから、本採用となり現在に至っています

39歳の時に初めて公募展に出品され、出品数の1割強しか入選しませんがこれまでに3回入選されたとのこと

出品することが刺激となり、批判されることを恐れず、今後の作品造りに活かそうと考え、「素直に人の意見を聞く」ことをモットーに日々創作に取り組んでおられます

出西窯は今年で創業65周年を迎え、起業した当時は、来られた方々ひとり一人にお茶や旬のものを提供し"おもてなし"を大切にされていたとのこと  
今ではメディアを通じ全国から多数お客さまが来られることはとても嬉しく、引き続きおもてなしの精神でお客さまを迎えることがとても大事なと感じられるそうです

採用されてから数十年が経過した今、当たり前前の事が大事であり、毎日まじめに仕事をして作品を造り、この作品が人（お客さん）の心を動かす（評価してもらえる）ことがわかりありがたく思いますとのこと

深津さん自身は出雲の「赤瓦」「築地松」「出雲大社」が好きで、特に斐川平野に多く残っている築地松が気に入っているとのこと

しかし、近年松くい虫で減ってきていることや、これを管理する職人さんの数も少ないことが残念ですとおっしゃっていました

取材を終えて・・・

深津さんはとても気さくな方で、長時間にも及んだインタビューの間もニコニコといろいろな話しに耳を傾けてくださったり、常にインタビュアーの顔を見ながら聞いたり、話したりという姿勢が素晴らしい方でした

出西窯は、地元の良質の土を使用し、皿、鉢、コーヒーカップなど使い勝手のよい器を目指して創作に取り組んでいらっしゃる、市内外はもちろん、関東、関西方面など全国各地に発送されています

好きな言葉は・・・

『 凜

深津 典子 』